

# JAMA NEWS

NO. 51

## The Japanese Association of Management Accounting

日本管理会計学会 〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター (株)国際文献社内 日本管理会計学会事務局

### 2020年度年次全国大会記

大鹿智基 (早稲田大学)

日本管理会計学会2020年度年次全国大会 (辻正雄準備委員長) が、2020年8月27日(木)~29日(土)の会期で、名古屋商科大学大学院名古屋校 (名古屋キャンパス丸の内タワー) を会場として開催された。新型コロナウイルス感染症の全国的な感染の拡がりを背景として、対面での開催が危惧されたものの、参加人数に対して十分なソーシャル・ディスタンスを維持できる会場の確保ができたことと、さらなる感染拡大が見られた場合にオンライン開催へ切り替えられる見込みが立ったことを受けて、対面での開催が決断された。残念ながら、一部の会員の所属機関では出張が制限されており、参加者が例年よりも少なくなってしまう、懇親会が開催できない、というような影響が生じたものの、会員の交流や研究への刺激という点において有意義な場となった。本大会記では、大会の様子の一部を紹介する。

#### [大会1日目]

常務理事会・理事会をはじめとする諸会議が開催され、昨年度の事業報告、決算、監査報告、今年度の事業計画、予算、さらに学会賞審査委員会からの審査結果などについて、審議・報告がなされた。なお、2021年度年次全国大会の会場が長崎県立大学となったことも報告された。

#### [大会2日目]

午前中は7会場に分かれて14の自由論題報告からスタートした。その後、オンライン会議システムを利用して、Georgetown University のWilliam and Karen Sonneborn Term Associate Professorships である Jason D. Schloetzer氏による基調講演“Causality in Management Accounting Research”がおこなわれた。より質の高い管理会計研究を目指すため、因果関係を検証する手法の洗練した研究を推進することの必要性が強調された。この「因果関係」というキーワードは、午後の統一論題報告でも繰り返し言及される、当年次全国大会の核となる用語である。

昼食後の会員総会では、事業報告・計画、決算・予算・監査などの審議・報告のほか、学会賞の授与式も開催された。特別賞、功労賞、論文賞、文献賞については今年度該当者なしであったが、以下の2名に対して奨励賞が授与された。

岩澤佳太氏「ジャストインタイム生産方式の導入に伴うミニ・プロフィットセンター制の変化 - 水平的インタラクションに注目して -」

牧野功樹氏「中小企業の管理会計研究 - システムティック・レビューによる統合の試み -」

その後開催された統一論題報告・討論のテーマは「エビデンス・ベースト (Evidence based) な管理会計研究を目指して」であった。まず、座長の安酸建二氏 (近畿大学) から解題がなされた。安酸氏は、管理会計研究における「エビデンス」が、「因果関係を主張すること」と「社会 (実務) で活用される研究結果を提示すること」の2要素から構成されるのではないかと、という提案をされた。さらに、そのために、因果関係を主張するための正しい研究手法を採用することと、管理会計の「成果」を測定するための変数を精査することが大切であると議論を展開された。

続く第一報告として、新井康平氏 (大阪府立大学) から「管理会計研究のエビデンス・レベル」というタイトルの下、因果関係を主張することの大切さと難しさについて報告がなされた。新井氏は、データを分析するだけでエビデンス・ベーストになるわけではなく、逆向きの因果関係や、欠落変数に起因する擬似相関を検出してしまふことを避けるため、時間的先行性、共変関係、他条件の同一性という3つの条件を満たす分析をおこなうことが大切だと主張した。さらに、3条件をすべて満たす研究方法として介入研究を紹介したうえで、その他の調査手法・研究デザインのエビデンス・レベルを整理された。

第二報告は、濱村純平氏 (桃山学院大学) による「エビデンス・ベーストな研究と理論による予測」であった。濱村氏は、理論 (数理モデル)、実証、ケースという3つの研究手法の相互補完関係を構築することの重要性を述べられた。そのうえで、産業組織論の観点から構築した数理モデルとして、補完財の関係がある2財が存在する場合に過剰投資が起こるという仮説を提示し、実際にアーカイバル・データを用いた実証分析の結果、仮説が支持されたという例が紹介された。

最後の第三報告として、福嶋誠宣氏 (京阪アセットマネジメント株式会社) から、「エビデンス・ベーストな研究の実務に対する有用性」というタイトルで報告がなされた。福嶋氏は、実務家としての立場も持つ研究者として、研究者による研究成果が実務において採用されない原因を追究し、研究者の主張する研究成果があくまで「平均的な分析結果」であるため、妥当な範囲に自社が含まれるのか (研究における分析結果が自社にも適用できるのか) という点と、経済的帰結が存在するのか (自社の業績にプラスになるのか) という点がクリアになれば、なかなか実務への応用が難しいだろう、という指摘をされた。

報告の後の討論では、4名から提出された質問用紙に基づく質疑がなされた後、フロアからの追加の質問を含めた活発なディスカッションがおこなわれた。安酸座長のコーディネートの下で、本来のテーマであった管理会計研究の方向性のみならず、若手研究者のキャリア戦略、学会誌の方向性、実務界との相互発展に向けた対応策に関する提案などもなされ、実り多い統一論題報告・討論となった。

#### 【大会3日目】

午前中は、自由論題11報告と、2つのスタディ・グループによる中間報告・最終報告がおこなわれた。その後、特別企画として、辻正雄氏（名古屋商科大学）の司会の下、荻野好正氏（XIB キャピタルパートナーズ(株)シニ

アアドバイザー、曙ブレーキ工業(株)前副社長)より「企業のオペレーションにおける黄色信号」をテーマとする講演が開かれた。講演では、経営上の「黄色信号」を検知するためにチェックすべき財務・非財務項目について、実務の経験に裏打ちされた提案がなされた。コロナ禍での開催ということもあり、多くの研究者・実務家が企業経営についての危機感を共有する中で、討議者であった伊藤和憲氏（専修大学）および加登豊氏（同志社大学）からも追加的なディスカッションのテーマが提示され、フロアからの質疑も含めて白熱した議論の場となった。

最後に、自由論題15報告がおこなわれ、大会の終了となった。

## 2021年度年次全国大会 開催ご挨拶

大会実行委員長 長崎県立大学 宮地晃輔

日本管理会計学会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。このたび、2021年度の年次全国大会が、8月26日（木）～8月28日（土）の日程で長崎県立大学 佐世保校に於いて開催されることになりました。今大会の開催時期には、新型コロナウイルス感染が収束していることを切に願い、東京オリンピック・パラリンピック2020も無事開催されていることを切望しながら、昨年に引き続き対面による全国大会開催で準備を進めさせて頂いております。

今大会の準備（実行）委員会は、以下にご案内の「日本管理会計学会2021年度年次全国大会スケジュール予定」に基づきまして現在、開催準備を行っております。統一論題テーマは、「間接費配賦の再考」を予定しております。また、特別企画「管理会計のレゾナードール」

の開催を予定しております。スタディ・グループ報告及び産学共同研究グループ報告が予定されています。

今大会の特別講演会といたしまして、株式会社ジャパネットたかたの創業者である高田明氏の講演開催が決定しております。

自由論題報告の募集につきましては2021年3月に会員各位にご案内し、詳細の大会プログラムは6月下旬にご郵送する予定です。多くの皆様にご参加いただけますよう、準備委員会一同は万全の準備を進める所存でございます。西海国立公園九十九島、パールシー・リゾート、ハウステンボスなど観光都市の佐世保の地で、多くの会員の皆様とお会いできますことを心より願っております。会員の皆様のご参加を賜りますよう何卒よろしくご挨拶申し上げます。

### 日本管理会計学会2021年度年次全国大会スケジュール予定

※ 会場：長崎県立大学佐世保校：〒858-8580 長崎県佐世保市川下町123番地

#### 【大会1日目】

##### 8月26日（木）

14：00～15：20 常務理事会  
15：30～16：50 理事会  
17：00～18：00 各種委員会

#### 【大会2日目】

##### 8月27日（金）

9：00～17：00 受付 長崎県立大学佐世保校  
9：30～10：35 自由論題報告（1） ※7会場 最大14報告  
10：45～11：45 特別企画「管理会計のレゾナードール」  
（ご発表：30分、討議30分）  
司会：椎葉淳先生（大阪大学）  
講演者：加登 豊先生（同志社大学）  
討議者：2名の先生方  
11：50～12：50 昼食  
13：00～13：50 会員総会

14:00～15:40 統一論題報告

統一論題テーマ：間接費配賦の再考

ご登壇者

丸田起大先生 九州大学教授（経済学研究院）（座長）

高橋 賢先生 横浜国立大学教授（国際社会科学研究所）

谷守正行先生 専修大学教授（商学部）

足立俊輔先生 下関市立大学准教授（経済学部）

15:50～16:10 休憩

16:10～17:40 統一論題討議 座長：丸田起大先生、統一論題ご報告者3名

18:30～20:30 開催可能な状態であれば懇親会

【大会3日目】

**8月28日（土）**

9:00～16:00 受付

9:30～10:35 自由論題報告（2）※7会場 最大14報告

10:45～11:55 スタディ・グループ報告 および産学共同研究グループ報告

【スタディ・グループ報告】本館1階 101教室

司会 田坂 公先生（福岡大学）

中間報告：10:45～11:20（ご報告25分 質疑10分）

研究代表 伊藤克容先生（成蹊大学）「DDP（仮説指向事業計画）の導入効果に関する研究」

最終報告：11:25～12:00（ご報告25分 質疑10分）

研究代表 諸藤裕美先生（立教大学）「原価企画の今日的課題と対応に関する研究」

【産学共同研究グループ報告】本館2階 201教室

司会 横田絵理先生（慶應義塾大学）

最終報告：10:45～11:20（ご報告25分 質疑10分）

研究代表 中川優先生（同志社大学）

「人を基軸にしたグローバル経営を展開するダイキン工業の管理会計の研究」

12:00～13:00 昼食

13:10～14:40 特別講演会

「高田明氏（ジャパネットたかた創業者）」開催決定

15:00～16:50 自由論題報告（3）※7会場 最大21報告

17:00 大会日程終了

## 学会業務日誌

2020年5月16日（土）～5月20日（水）

▼第1回常務理事会開催（メールによる持回り会議）

▼第1回理事会開催（メールによる持回り会議）

- ◆ 2019年度の事業報告が承認されました。
- ◆ 2020年度の方針および事業計画が承認されました。
- ◆ 「理事会の議決による理事」の選任が承認されました。
- ◆ 「理事会の議決による常務理事」の選任が承認されました。
- ◆ 学会賞審査委員の選任が承認されました。
- ◆ 業務分担および役員が承認されました。
- ◆ 参事の選任が承認されました。
- ◆ 新入会員の承認と会員の異動が承認されました。
- ◆ 産学共同研究およびスタディ・グループの会計報告が承認されました。

- ◆ 学会誌『管理会計学』の発行状況について報告されました。
- ◆ 2020年度全国大会の準備状況について報告されました。
- ◆ 国際学会参加費の助成について報告されました。
- ◆ スタディ・グループの公募について報告されました。

2020年7月18日（土）

▼第2回常務理事会開催（専修大学）

- ◆ 2019年度の収支決算書（案）および監査報告が承認されました。
- ◆ 2020年度収支予算（案）が承認されました。
- ◆ スタディ・グループ申請書が承認されました。
- ◆ 新入会員（正会員3名・準会員10名）、正会員から準会員1名、退会者（正会員22名・準会員6名）が

- 承認されました。
- ◆ 2020年度全国大会の準備状況について報告されました。
- ◆ 地方部会の活動状況について報告されました。
- ◆ フォーラム・リサーチセミナーの活動状況について報告されました。
- ◆ 企業研究会の活動状況について報告されました。
- ◆ 学会誌『管理会計学』の発行状況と編集方針について報告されました。
- ◆ 学会創設30周年記念事業について報告されました。

2020年8月27(土)

▼第3回常務理事会開催(名古屋商科大学)

▼第2回理事会開催(名古屋商科大学)

- ◆ 2020年度会員総会次第について、承認されました。
- ◆ 2019年度収支決算書(案)および監査報告書が承認されました。
- ◆ 2020年度収支予算(案)が第2回常務理事会からの修正点が報告された後、承認されました。
- ◆ 学会賞(論文賞・文献賞・奨励賞)について承認されました。
- ◆ 新入会員(正会員3名・準会員1名)、準会員から正会員2名、退会者(正会員2名)が承認されました。
- ◆ 2020年度第2回国際会議参加経費の助成が承認されました。
- ◆ 2020年度全国大会の準備状況について報告されました。
- ◆ 2021年度年次全国大会が長崎県立大学で開催される旨について報告されました。
- ◆ 地方部会の活動状況について報告されました。
- ◆ フォーラム・リサーチセミナーの活動状況について報告されました。

- ◆ 企業研究会の活動状況について報告されました。
- ◆ 学会誌『管理会計学』の発行状況について報告されました。
- ◆ 学会創設30周年記念事業について報告されました。

2020年11月14(土)

▼第4回常務理事会開催(長崎県立大学)

- ◆ 新入会員(正会員2名※・準会員1名)、復会(正会員2名)、正会員から特別会員1名、退会者(正会員2名・準会員1名)が承認されました。※1名は不備の修正を条件のもとで承認されました。
- ◆ 2021年度第1回国際会議参加経費の助成が承認されました。
- ◆ スタディ・グループの会計報告が承認されました。
- ◆ スタディ・グループ規定および産学共同研究グループ規定の一部変更が承認されました。
- ◆ EBSCOへ管理会計学誌を掲載する旨が承認されました。
- ◆ 2021年度年次全国大会が8月26日(木)～8月28日(土)に長崎県立大学で開催される旨が報告されました。
- ◆ 地方部会、企業研究会の活動状況について報告されました。
- ◆ フォーラム・リサーチセミナーの活動状況について報告されました。
- ◆ 学会誌『管理会計学』の発行状況について報告されました。
- ◆ 学会創設30周年記念事業について報告されました。
- ◆ マイページの開設を進めていく旨が報告されました。
- ◆ 人文社会系学協会連合連絡会事務局から共同声明を出すことに対する依頼について日本管理会計学会では声明に対して特段のアクションは行わなかった旨の報告がなされました。

## 会員数の推移

- 第1回常務理事会(2020.5.20)：新入会員14会員(正会員9名・準会員4名・賛助会員1社)、会員種別変更5名(準会員から正会員4名・正会員から特別会員1名)、退会者11名(正会員11名)、会員現員数は715会員(正会員:629名、準会員:66名、賛助会員:11社、特別会員:9名)
- 第2回常務理事会(2020.7.18)：新入会員13会員(正会員3名・準会員10名)、会員種別変更1名(正会員から準会員1名)、退会者28名(正会員22名・準会員6名)、会員現員数は700会員(正会員:609名、準会員:71名、賛助会員:11社、特別会員:9名)
- 第3回常務理事会(2020.8.27)：新入会員4会員(正会員3名・準会員1名)、会員種別変更1名(準会員から正会員2名)、退会者2名(正会員2名)、会員現員数は702会員(正会員:612名、準会員:70名、賛助会員:11社、特別会員:9名)
- 第4回常務理事会(2020.11.14)：新入会員3会員(正会員2名・準会員1名)、復会2会員(正会員2名)会員種別変更1名(正会員から特別会員1名)、退会者3名(正会員2名、準会員1名)、会員現員数は704会員(正会員:613名※、準会員:70名、賛助会員:11社、特別会員:10名)※不備の会員申込提出者1名を含む。

## 事務局からのお知らせ

○フォーラムやリサーチセミナーの案内等、会員宛の連絡にeメールを活用したいと考えています。メールアドレスを未登録の方は、学会事務局までご連絡ください。また、すでに登録されている方で、案内等が届かない、あるいは、メールアドレスに変更があった場合には、速やかに学会事務局までご連絡ください。

日本管理会計学会広報 責任者 : 崎 章浩

メンバー : 庵谷治男、大槻晴海、奥 倫陽、川島和浩、梅田 宙

発行機関 : 日本管理会計学会

《本部事務局》 〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5

アカデミーセンター (株) 国際文献社内

日本管理会計学会 事務局

【ホームページURL】 <http://sitejama.jp/>

【E-mail】 [jama-post@bunken.co.jp](mailto:jama-post@bunken.co.jp)

【TEL】 03-6824-9371 【FAX】 03-5227-8631